

むかし話のあらすじと、正しい「だい名」を線でむすびましょう

1

1 年よりの木こりとわかい木こりが山で木を切っていました。その山は「まもの」がでるといいうわさがあり、年よりの木こりは「まもの」が出ないかとけいかいしていました。

- ふんぶくちやがま

2

2 雨がふるたびにながれてしまうはしがありました。村人たちからはしを作るようにたのまれた男がなやんでいると、おにが「おまえの目玉とひきかえにはしを作つてやる」と言い、はしを作つてしまいました。

- 牛うしおにぶち

3

3 おちやのかまにへんしんしていた「たぬき」がひよんなことから、まずしい男にひきとつてもらい、つなわたりなどのげいを見せてお金をかせぎ、男はお金もちになりました。

- 大工とおにろく

4

4 心やさしいおじいさんといいわるなおばあさんがくらしていました。ある日、おじいさんがはたけからいえへもどるとちゅう、けがをしているどうぶつを見つけました。かわいそうに思ったおじいさんは家につれていき、手当てをしてあげました。

- したきりすずめ

